

北西久保

長野県佐久市岩村田北西久保遺跡発掘調査報告書

昭和 55 年 3 月

長野県佐久市教育委員会

序 文

佐久市教育委員会

教育長 浅沼 馨

北西久保発掘調査を終わって

北西久保遺跡は、従来弥生時代の遺物や埴輪を出土する遺跡として知られており、近接の諸々の遺跡の存在からも相当規模な遺跡であろうと思われてきた。しかし、このような遺跡にもかかわらず、開発の波がひたひたと足下にせまってきつつある。

昨近の状況下で、保護・保存対策は、消極的なものであった。よって市文化財保護機関としての市教委は、国・県の補助措置を得て、本遺跡の保護・保存策を得るべく調査を実施した。

当該地は、嘗て一本柳団地造成によって、調査が八幡一郎氏を団長として行なわれた接続地であり、重要遺構の検出等については、想像に難くなかった。

昭和54年4月、団編成をなし、予定期間は現地2ヵ月として発掘に入った。地層は、火山灰土の軟弱層であるだけに、降雨などの場合に遺構の原形の流失や反面晴天には、直ちに乾燥白土化し、判断を困難ならしめて調査も容易でなかった。調査が日を逐うに従って貴重な全貌が、想像に違わず応えていた。

弥生時代中・後期から、古墳時代和泉期、さらに平安時代に及ぶ複合遺跡であり、驚嘆おくあたわざるものがあつた。検出遺構は、弥生時代住居址実に88軒、古墳時代25軒、平安時代2軒、古墳跡3基、土壇60基、周溝6基等先人の営みの跡が歴然として長い時間・空間を超えて、調査団の綿密な調査の運びの中に確認された訳である。

出土品も、壺、甕、甑、坏、高坏、埴輪、鉄器等、弥生・古墳時代を通じてのドラマの展開を偲ぶ数々であつた。

本調査に積極参加の調査団の皆さん、並びに県文化課の助成のご措置、又学術的、技術的にご指導に深甚な謝意を申しあげてご挨拶といたします。

例 言

1. 本書は、昭和54年4月12日～昭和54年6月28日までにわたって発掘調査された長野県佐久市大字岩村田字北西久保に所在する北西久保遺跡の調査報告書である。
2. 本調査は、佐久市教育委員会が昭和54年度国庫補助事業として計画し、佐久市教育委員会が実施した。
3. 本調査は、藤沢平治・土屋長久を発掘担当者とし、佐久考古学会有志を調査員とし、地元岩村田、根々井、桜井、塚原、落合地区の方々の協力を得て実施した。
4. 本書の編集は林幸彦が行い藤沢平治がこれを校閲した。
5. 本遺跡の資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。また、調査にあたって、長野県文化課関孝一指導主事、丸山徹一郎指導主事、白田武正指導主事には適切な御指導をいただき、地元の皆様には物心両面にわたる御援助を賜り厚く御礼申し上げます。

本文目次

序文	
例言	
本文目次	
付表目次	
挿図目次	
図版目次	
I 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 発掘調査の概要	1
3 発掘調査日誌	3
II 遺跡の位置と環境	8
1 周辺遺跡	8
2 北西久保遺跡付近の地形地質（自然環境）	8
III 層序	12
IV 遺構と遺物	15
V 総括	19

付表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	11
第2表 確認遺構一覧表	16

挿図目次

第1図 遺跡の位置及び調査対象地	2
第2図 北西久保遺跡層序模式図	9
第3図 周辺遺跡分布図	10
第4図 北西久保遺跡層序模式図	12
第5図 北西久保遺跡発掘区設定図	13・14
第6図 北西久保遺跡出土遺物実測図	16
第7図 北西久保遺跡出土遺物実測図	17

図 版 目 次

- 図版一 1. 北西久保遺跡全景（南東より） 2. 北西久保遺跡近景
- 図版二 1. 桑の抜根作業 2. 調査前の北西久保遺跡全景
- 図版三 1. 層序 2. 発掘風景
- 図版四 1. 発掘風景（南西より） 2. 調査実施箇所（あ～か-1～12グリッド，南西より）
- 図版五 1. 調査実施箇所近景（す～ち-1～12グリッド） 2. 調査実施箇所近景（あ～ち-1～25グリッド，北東より）
- 図版六 1. 調査実施箇所近景（も～よ-36～50グリッド，東より） 2. 確認遺構（ゆ-39・40グリッド内） 3. 確認遺構分布状況（や-40～49）
- 図版七 1. 確認遺構の重複状況（さ・し-22～23グリッド，東より） 2. 確認遺構分布状況（さ～す-12～19グリッド，南より，北西久保第3号古墳）
- 図版八 1. 確認遺構分布状況（む・め-35～39，東より） 2. 確認遺構分布状況（み-39・40グリッド，東より） 3. 確認遺構分布状況（も・や-38～40グリッド）
- 図版九 1. 確認遺構分布状況（の・は-41～47グリッド，西より） 2. 確認遺構分布状況（し-7～26グリッド，東より） 3. 確認遺構分布状況（し-14～25グリッド，東より）
- 図版十 1. 北西久保第2号古墳（た～と-21～25グリッド，北東より） 2. 北西久保第2号古墳（北東より） 3. 北西久保第2号古墳（北西より）
- 図版十一 1. 確認遺構分布状況（せ-14～36グリッド，東より） 2. 遺物出土状態（せ-15グリッド，北より） 3. 遺物出土状態（せ-15グリッド，北より）
- 図版十二 1. 遺物出土状態（み-39グリッド） 2. 遺物出土状態（け-4グリッド，南より） 3. 遺物出土状態（む-45グリッド）
- 図版十三 1. 遺物出土状態（き-15グリッド） 2. 遺物出土状態（第1号古墳）
- 図版十四 1. 遺物整理作業 2. 遺物整理作業
- 図版十五 北西久保遺跡出土遺物
- 図版十六 北西久保遺跡出土遺物
- 図版十七 北西久保遺跡出土遺物

I 発掘調査の経緯

1 調査に至る動機

北西久保遺跡は、佐久市大字岩村田字北西久保に所在する。近接して一本柳遺跡群、鳴沢遺跡がある。

本遺跡は昭和41年及び45年の2次に渡って調査されており、弥生時代の土塚墓と中世の五輪塔が出土している。が、調査の及んだのは本遺跡の南斜面から南方へ伸びる段丘上であり、台地上の広い範囲においては表面調査がなされているにすぎない。従来、弥生時代の遺物や埴輪を出土する遺跡として知られていたが、埴輪を出土する古墳の存在はもちろん、住居址等の存在の有無も確認されていなかった。しかしながら、多量の遺物の散布状況や常木用水を経だてた一本柳遺跡群との関連から相当規模の包蔵地として注目されてきていた。

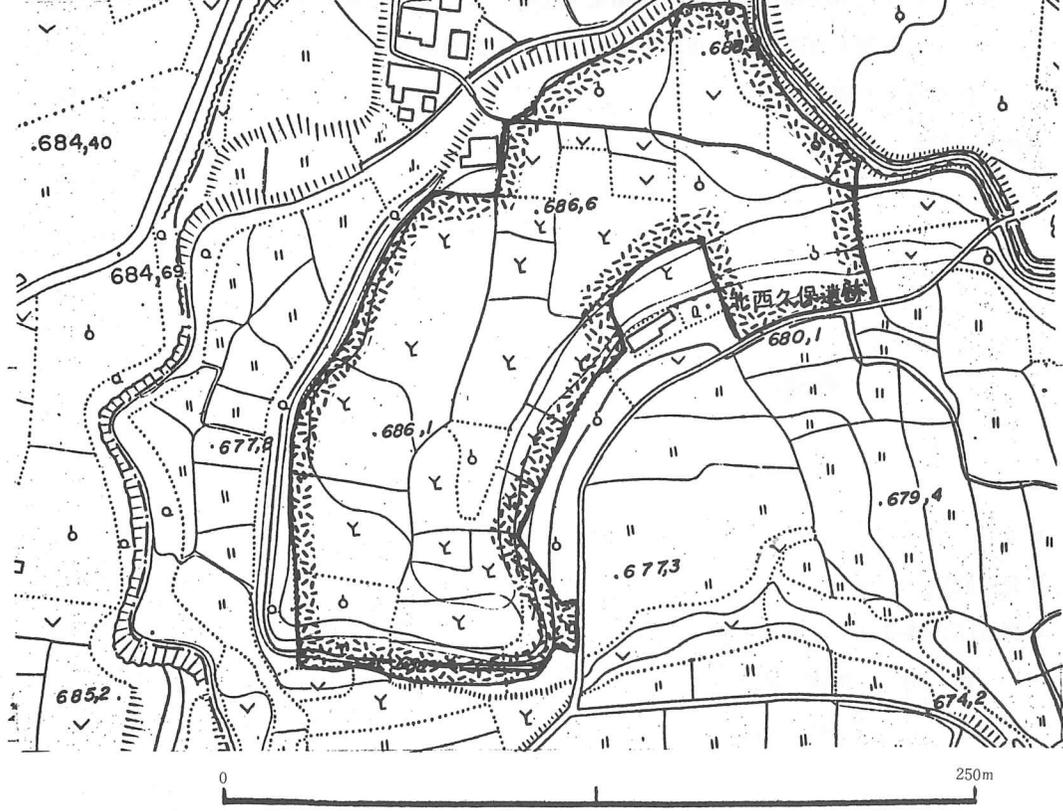
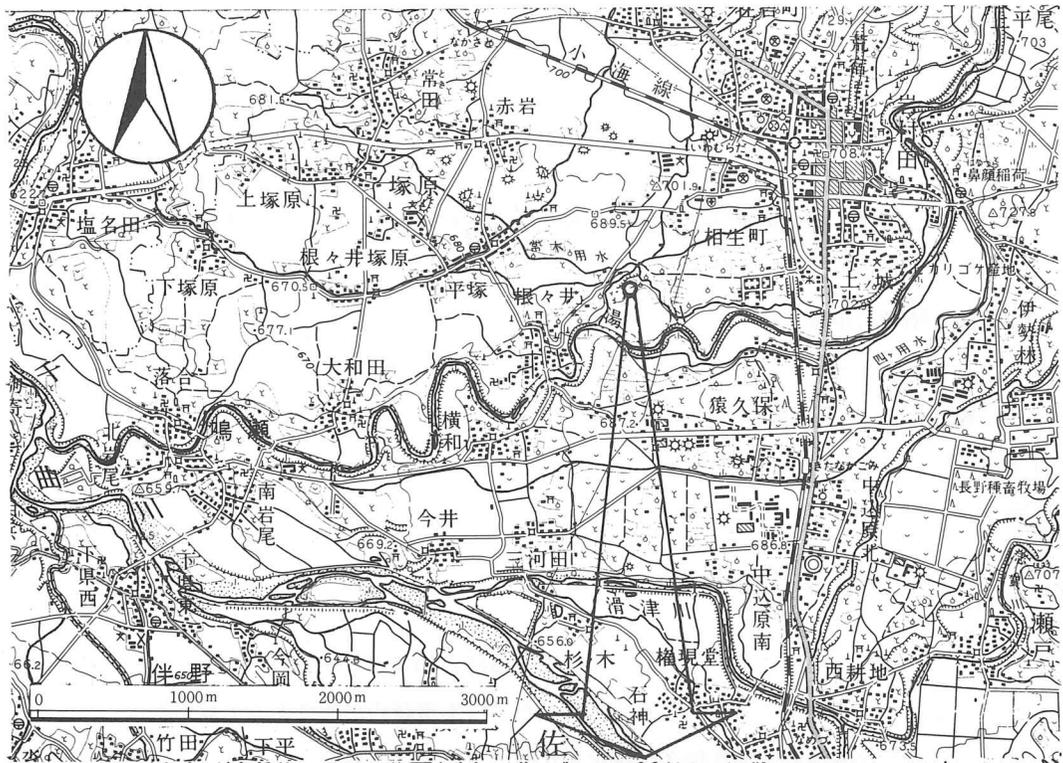
このような遺跡であるにもかかわらず、開発の足音が刻一刻と眼下にせまってきつつある昨今の状況下で（昭和48年には上の城遺跡、西一里塚遺跡と相ついで開発行為により発掘調査されている。）保護・保存対策は消極的なものであった。（本遺跡の出土である五輪塔群は、地主の井上氏の献身的な保護活動により佐久市指定文化財となっはいるが。）

これらの諸状況を鑑みて佐久市教育委員会は、長野県教育委員会文化課の指導の下に本遺跡の保護・保存施策を得るべく幾度か協議をかさねた。その結果、昭和54年度国庫補助事業として本遺跡の時期等性格や範囲を確認し、今後の保護・保存施策を得るべく当教育委員会は、発掘調査団を組織した。顧問に当市長神津武士、国学院大学永峰光一先生、発掘調査担当者に藤沢平治氏・土屋長久氏を依頼し佐久考古学会有志の協力を得て、昭和54年4月12日より発掘調査を実施する運びとなった。

2 調査の概要

- 遺跡名 北西久保遺跡
- 所在地 長野県佐久市大字岩村田字北西久保
- 発掘期間 昭和54年4月12日～昭和54年6月28日
- 調査団の構成は次の通りである。

顧 問 神津 武士
永峰 光一



第1図 遺跡の位置及び調査対象地

団 長 浅沼 馨
 担当者 藤沢 平治
 土屋 長久
 主 任 林 幸彦
 調査員 武藤 金、森泉 定勝、三石 延雄、井上 行雄、黒岩 忠雄、由井 明、
 白倉 盛男、佐藤 敏、井出 正義、島田 恵子、木内 捷、工藤かよこ、
 調査補助員 林 文典
 協力者 市村静子、佐藤栄子、佐藤てる子、市村はるい、荻原幸子、岩間まさえ、森泉
 とよこ、佐藤ふみ、佐藤久子、大塚利子、茂木きみえ、小井土竹二郎、並木こ
 とみ、大井恵美子、大塚たまえ、佐藤活江、大井よし子、金森治代、白田靖子
 西川森子、鬼久保千代子、清水米代、井上寿美子、大井きよめ、遠藤しずか、
 井上よね子、大井夏子、大井今朝太、羽生田伸博、関ゆり子、丸山勝子、工藤
 光三、伊藤須恵松、
 野沢南高郷土史班、岩村田高社会班、浅間中学郷土史班、

○調査に関する事務局の構成組織は下記の通りである。

市川弥四郎	佐久市教育委員会教育次長	
白田 幸作	〃	社会教育課長
塚田 孝範	〃	社会教育係長
堀内美喜雄	〃	社会教育係
高村 博文	〃	社会教育係

3 発掘調査日誌

- | | |
|------------------------------------|--|
| ○ 4月12日 (木) 晴れ
草刈り機により枯れ草を刈り取る。 | 草刈り、トラクターによる抜根作業 |
| ○ 4月13日 (金) 晴れのちくもり
草刈り | ○ 4月17日 (火) 晴れ
草刈り、一部刈った草の除去作業、トラク
ターにより抜根作業 |
| ○ 4月14日 (土) 晴れ
草刈り。 | ○ 4月18日 (水) 晴れ
午前中市役所会議室にて調査団の打ち合せ
会。午後発掘区のグリッドを設定。桑の根
の除去作業。 |
| ○ 4月15日 (日) 晴れ
休日 | |
| ○ 4月16日 (月) 晴れ | ○ 4月19日 (木) くもりのち雨 |

- 桑の根除去作業。グリッド設定作業を雨中にて行なう。
- 4月20日（金）雨
現場は作業中止。資料室で遺物搬入の準備をする。
- 4月21日（土）曇のち雨
午前中表面の清掃を行う。午後は作業中止
- 4月22日（日）晴れ
休日
- 4月23日（月）晴れ
草を燃やす。
本日より耕作土掘り下げ。あ-3~6・7
い-2~7グリッドを巾2mのトレチ掘りをする。
- 4月24日（火）曇
い-8~21グリッド掘り下げる。い-5グリッドより弥生時代中期の土器出土する。
耕作土上端よりローム層まで約80cmを測り包含層は厚い。
全体を早急に把握するため遺跡の南西部より掘り下げることにする。
- 4月25日（水）晴れのち曇
い-8~21、ゆ-36~49グリッド掘り下げ
台地の先端は耕作土浅く、遺物包含層はなく耕作土直下がローム層及び遺構覆土となっている。
- 4月26日（木）曇
よ-36~40、り-35~40グリッド掘り下げ
弥生中期の土器がほとんど占める。
- 4月27日（金）雨
作業中止
- 4月28日（土）曇
め-35~48グリッド掘り下げ。
- 4月29日（日）
休日
- 4月30日（月）雨
作業中止
- 5月1日（火）晴れ
雨のためほこりがたたなくなり作業しやすくなる。浅間山、八ヶ岳連峰がくっきりみることができる。
み-41~50、ほ-41~48グリッド掘り下げる。
- 5月2日（水）晴れ
み-32~40、ほ-31~40グリッド掘り下げ
- 5月3日（木）晴れ
は-29~33、ね-28~38グリッド掘り下げ
台地先端より本日の地点までほとんど弥生時代中期の土器が出土している。
- 5月5日（土）
連休日
- 5月6日（日）
- 5月7日（月）晴れのち曇
ね-25~27、と-25~34グリッド掘り下げ
- 5月8日（火）雨
作業中止。
- 5月9日（水）曇
な-34~47、て-34~40グリッド掘り下げ
- 5月10日（木）晴れ
な-29~33、て-22~25グリッド掘り下げ
た-100~8。
- 5月11日（金）晴れのち曇
な-23~28、し-1~8グリッド掘り下げ
土師器の出土多い。
- 5月12日（土）曇

- た-33~39、た-15~20グリッド掘り下げ。
- 5月13日（日）晴れのち曇
休日
- 5月14日（月）雨
作業中止
- 5月15日（火）曇
た-21~23、し-21~24、ち-1~8グリッド掘り下げ。
- 5月16日（水）雨
作業中止
- 5月17日（木）雨
- 5月18日（金）晴れ
せ-25、26、し-26~34グリッド、ち-97~8グリッド掘り下げ。た-9~14、て-26~40。
- 5月19日（土）晴れ
そ・た-100~8、せ-19~24、し-27~25
21~17、せ-28~35掘り下げ。
- 5月20日（日）曇
休日
- 5月21日（月）晴れ
せ-3~18、9-11グリッド掘り下げ。土師器、弥生中期土器出土。け-8~12。
- 5月22日（火）晴れ
せ-1・2、け-1~7、13~21グリッド掘り下げ。埴輪片多い。
- 5月23日（水）曇
き-17~22、き-1~6グリッド掘り下げ。
- 5月24日（木）晴れ
き-7~16、え-9~15グリッド掘り下げ。
- 5月25日（金）晴れ
え-2~9、16~18グリッド掘り下げ。5月10日より耕作土掘り下げと平行して、又
- ややおくれて遺構の不明な箇所の再確認を行う。本日より南西部より確認遺構の実測を始める。
- 5月26日（土）曇
え-10~15、19~21、お-18~21グリッド掘り下げ。実測。
- 5月27日（日）晴れ
休日
- 5月28日（月）晴れ
初夏をおもわせるように暑い。
ぬ-100~9、お-15~11、う-14~16グリッド掘り下げ。
- 5月29日（火）晴れ
ぬ-100~9精査、A~Dトレンチ掘り下げ。
- 5月30日（水）晴れ
う-11~17グリッド掘り下げ。
本日より東西トレンチに直交する巾1mと2mのトレンチをミックスさせて、すでに確認されている遺構のより明確さを求める
そ・た・ち-97~99グリッド掘り下げ。国分期の須恵、土師器が出土。実測平行。
- 5月31日（木）晴れ
い-5~6、う-6、え~こ-6グリッド掘り下げ。
- 6月1日（金）晴れ
け・こ-5、さ-2~4、す-1~4、し・す-7~9・12グリッド掘り下げ。
- 6月2日（土）晴れ午後雷雨
す-15・16掘り下げ。
- 6月3日（晴れ）日
休日
- 6月4日（月）晴れ

- すー16・17、こー15・16グリッド埴輪の出
土するプラン追求。一輪車で廃土運搬。
- 6月5日(火) 晴れ
こ・さー14
こ・さー17
グリッド
円形のプランを呈する溝状と推測される。
埴輪多量出土。
- 6月6日(水) 晴れ
こ・さー13、こ・さー17・18、し・すー12
・16グリッド掘り下げ。
- 6月7日(木) 晴れ後雨
こ・さー12、こ・さー18・19、き～けー16
グリッド掘り下げ。
- 6月8日(金) 雨のち曇
き～けー17、き～けー15・16
このところ農家も忙しく手薄であり作業は
ゆるいペース。
- 6月9日(土) 晴れ
き～けー17、き～けー15グリッド掘り下げ。
- 6月10日(日) 晴れ
休日
- 6月11日(月) 雨
資料室にて土器の水洗い。
- 6月12日(火) 曇
き～けー18、けー19、き～けー14・13掘り
下げ及び精査。
- 6月13日(水) 曇
き～けー20、くー19・20、お・かー19グリ
ッド掘り下げ。かー14～16、こ～けー13グ
リッド掘り下げ。この地点のプランは古墳
の周溝とおもわれる。
- 6月14日(木) 雨
- 6月15日(金) 曇のち晴れ
う・えー19、き～けー21、かー21、し～て
ー19、し～せー21グリッド掘り下げ。
- 6月16日(土) 晴れ
そ～にー21、と～つー9グリッド掘り下げ。
- 6月17日(日) 晴れ
休日
- 6月18日(月) 晴れ
し～そー7、し～つー19、し～とー21、せ
～なー25、ち・つー26～28、し～そー9グ
リッド掘り下げ。
- 6月19日(火) 曇のち雨
し～すー4、し・すー2、すー100、第2号
古墳掘り下げる。ほとんど壊れており、西
壁側が残るのみ。午後、土器水洗い。
- 6月20日(水) 晴れ
そー16、たー16、そー11、たー10～12、せ
～たー9・11、し～つー30グリッド掘り下
げ。
- グリッド列28以東の遺構分布図を縮尺 $\frac{1}{100}$ で
実測開始。古墳ち～なー23、てー22・23。
- 6月21日(木) 晴れ
ち・つー30、て～なー31、ち・つー32、に
・ぬー28、ち・つー35、ぬー29・30、と～
にー34、と～にー36、と～なー38、グリッ
ドを掘り下げ散水しながら確認する。
- 6月22日(金) 晴れ
に～ぬー28、ぬー28～30引き続き精査。ね
～はー30、ね・ひー32・33、ね～はー38、
ねー44～45、ひー34～36、の・はー44～45
グリッド掘り下げ。

○ 6月23日（土）晴れ○

ひ～へ-43、へ-38・39・47・48、ほ・ま
-43、ま-41・42グリッド掘り下げと昨日
のグリッド内の精査。

○ 6月24日（日）晴れ

休 日
担当者と現場で打ち合せ。

○ 6月25日（月）晴れ

み・む-37・39、み-41・42、み・む-44
め-37～39グリッド及び第3、も-37～39、
号古墳の掘り下げ。全体図（遺跡）を $\frac{1}{200}$ 縮
尺で実測開始。

○ 6月26日（火）晴れ

め～や-44グリッド掘り下げ及び精査。
本日で耕作土掘り及び精査は終了する。遺

跡全景写真を撮影する。実測は続ける。
器材の手入れ及び収納。

○ 6月27日（水）晴れ

遺跡の全体図作成続行。（S $\frac{1}{200}$ ）

○ 6月28日（木）晴れ

遺跡の全体図作成も本日で終了する。

○ 7月3日～14日

資料室にて遺物の水洗い及び註記作業。併
行して遺構の実測図修正トレス。

昭和55年

1月～2月

図面修正及びトレス。

原稿作成、割り付け。

3月

編集・刊行。

II 遺跡の環境

1 周辺の遺跡

本遺跡は、長野県佐久市大字岩村田字北西久保に所在する。湯川の北岸で微視的にみた最上段丘にあり、標高は686mをみる。

北は小諸懐古園、軽井沢町茂沢、南は滑津川、西は千曲川の断崖までの広範囲に渡って浅間山の噴出物である湯川層に覆われている地域は随所に、「田切り」地形が見られ、断崖が形成されている。この湯川層に覆われた地域は、北から南へ向けて緩傾斜する平坦面となっている。本遺跡も西側部はこの「田切り」地形をなしており断崖となっている。(第1・3図参照)

「田切り」地形に臨んだ高位の平坦地には、数多くの遺跡が存在し、本遺跡の周辺にも第3図のように上ノ城、一本柳遺跡群、鳴沢、西一里塚遺跡がある。これらは、第一表でもわかるように弥生～平安時代に属するものである。西一里塚遺跡では弥生時代後期の住居址11軒他が検出されている。本遺跡の西、前川をへだてた鳴沢遺跡では多量の弥生時代後期の土器片が表採されている。現在、本遺跡の東側部は常木用水に切断されているが、地形的にも一本柳遺跡群との関連が強いといえよう。

2 北西久保遺跡附近の地形・地質

北西久保遺跡は佐久市岩村田町の西部、約1km、湯川沿いの段丘上にあつて、標高680～688mを示している。附近一帯は浅間火山の初期黒斑火山噴出物塚原泥流の最南端分布地域にあたり、南方は湯川の浸蝕によって2段の河岸段丘が形成され、第一段は古くから水田が拓かれ米の多収地帯を形成している。第2段面が本遺跡面にあたるわけであるが、現在は680m内外の平坦地となって畑作地帯となっている。これは塚原泥流流出当初の地形面ではなく、その後の洪水溢流と人工耕作によって現在見られる平坦化されたものである。

この遺跡の東北部を流れる人工堰常木用水の掘割面や今回試掘トレンチ断面の地層が明らかに物語っている。即ち場所によって耕作土黒土の深さに著しい厚薄の差異があり、その下部には火山灰砂層が水平層をなして20～60cmの堆積を示している。それより下部が塚原泥流面で、その間には不整合面が認められている。

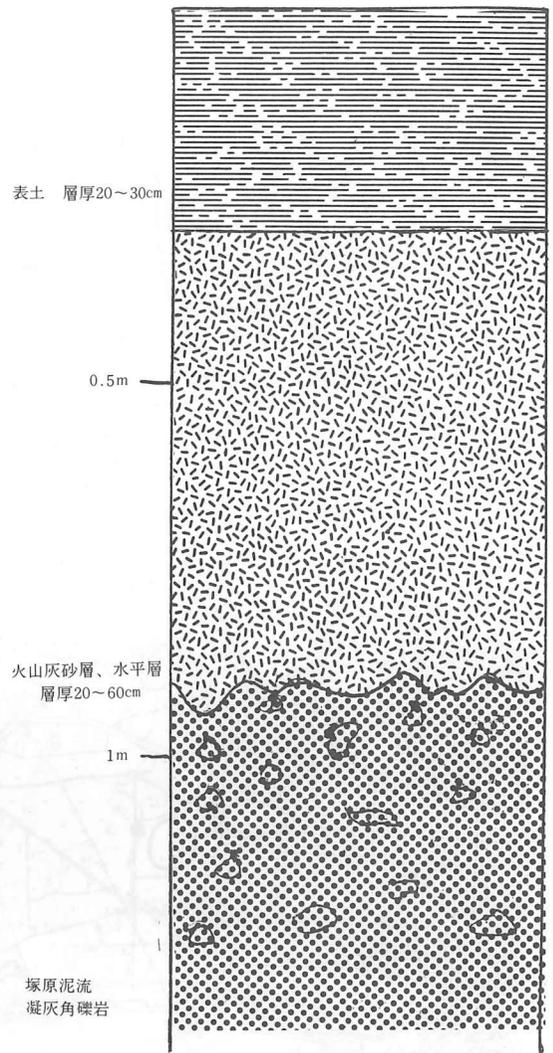
塚原泥流は浅間火山初期の黒斑火山末期の水蒸気爆発による多量の火山噴火熱泥流と山体を破壊した火山岩類で、小諸市の西方から岩村田の南方千曲川右岸約10km²の地域に分布し、高さ数m

～10数mの特徴ある泥流丘“流れ山”を数10個形成している。この泥流丘は、北東から南西方面にいくつかの列をなして引きのばされた平面をもって分布しており、塚原・平塚附近が今も原形を残している。

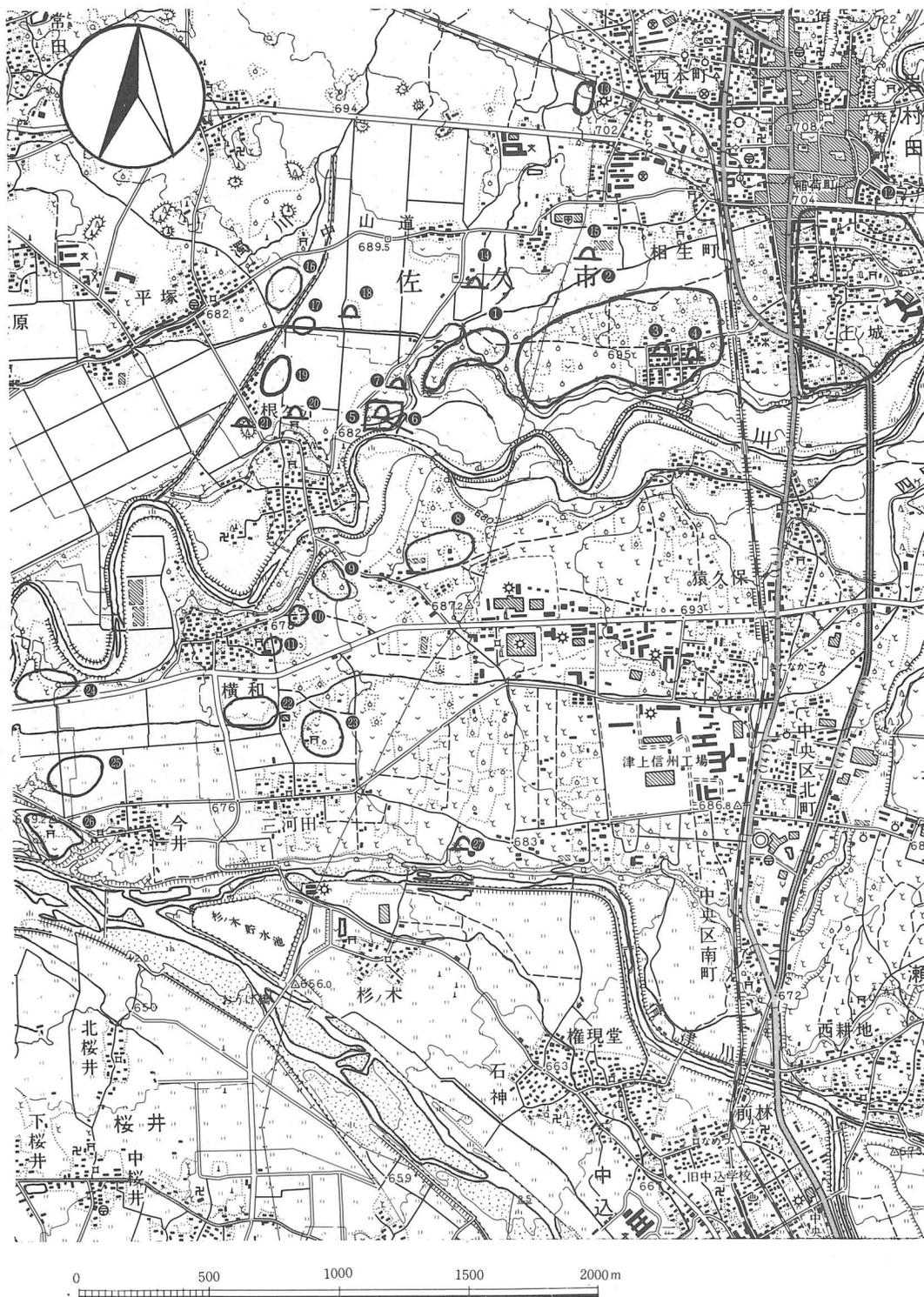
岩質は安山岩・凝灰角礫岩で黒斑成層火山の岩祖を示している。したがって流山形成の当時は現在のように平坦でなく凹凸が著しく、高所は高低の流れ山を、低所は湿地状をしていたものと考えられる。その後の洪水溢流により、土砂の移動が行われ凹地は埋められ平坦化して中佐都水田地帯が形成されたものである。

北西久保地帯は濁川・前川等によって田切状の谷が北部に発達したために地下水が低く、用水に恵まれず、現在まで畑作地帯となっていたもので、一本柳地区まで続くこの段丘面は佐久市北部地域では最も古くから人類が住みつき、往来の通路も早くから拓けた地帯である。

(白倉 盛男)



第2図 北西久保遺跡層序模式図



第3図 周辺遺跡分布図

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺 跡	所 在 地	立地	時 代				備 考
				縄	弥	古	歴	
1	北西久保	岩村田北西久保	段丘		○	○	○	
2	一本柳	岩村田一本柳	段丘		○	○	○	S47年7月発掘調査
3	一本柳古墳	〃	段丘				○	
4	〃	〃	段丘				○	〃
5	東原塚古墳	根々井鳴沢五里田他		○	○	○	○	
6	東原塚古墳	根々井東原				○		
7	小塚古墳	根々井鳴鳴沢				○		
8	寺畑	根々井寺畑			○	○	○	
9	芝宮	根々井芝宮		○	○	○	○	
10	湯の上	黄和湯の上		○	○	○	○	
11	宮の上	黄和宮の上		○	○	○	○	
12	上の城	岩村田上の上代	段丘			○	○	S48年7～11月発掘調査。
13	清水田	岩村田清水田	台地		○	○		S54年3月発掘調査
14	喜平治山古墳	岩村田長塚				○		
15	樋田古墳	岩村田樋田				○		
16	西一里塚	岩村田西一里塚1641			○	○	○	S48年10～11月発掘調査
17	堰向	根々井堰向			○	○	○	
18	我鬼塚古墳	岩村田東一里塚1641				○		
19	餅田	根々井餅田	台地		○	○		S48年3月発掘調査
20	姫宮塚古墳	根々井姫宮				○		
21	根々井大塚古墳	根々井大塚越				○		
22	高根	三河田高根					○	
23	土堂	横和寄塚					○	
24	寄塚	今井下原			○	○	○	
25	今井西原	今井下原	段丘		○	○	○	S49年6月発掘調査
26	今井西の前	今井宮の前			○	○	○	
27	三河田大塚古墳	三河田大塚				○		

宮 鳴 沢 三 河 田 石 堂 土

III 層 序

第I層 茶褐色土

第II層 黒色土層

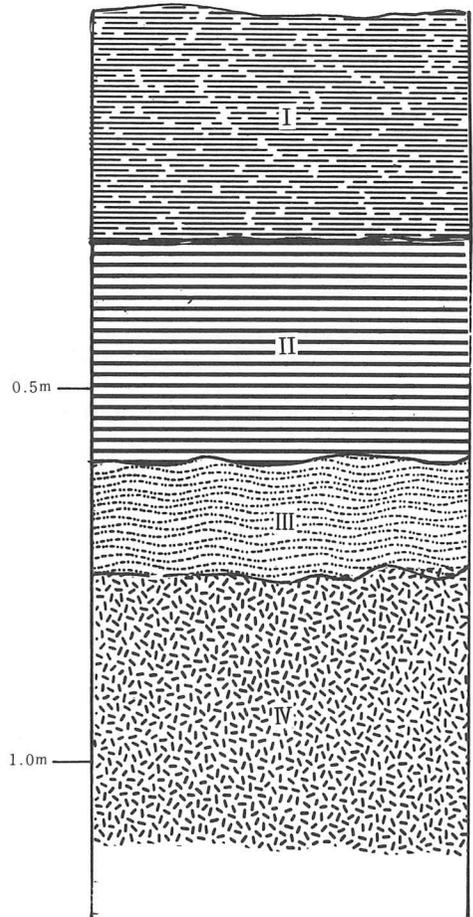
第III層 黄茶褐色土層

第IV層 黄色土層

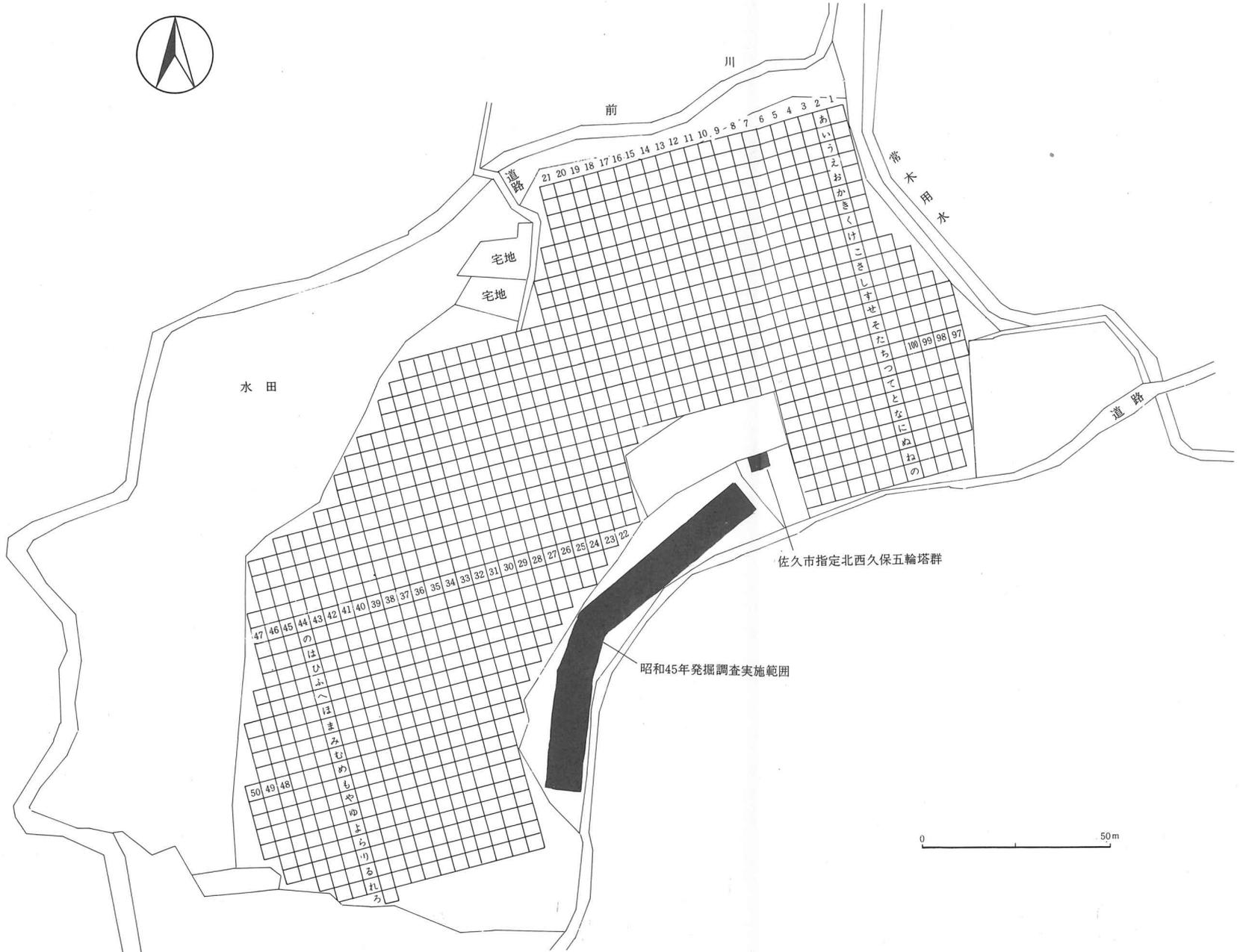
本遺跡は前章で述べたように湯川層の上面にあるため全体に地山はもろい。表面採集で多量の遺物が得られるように沖積世の堆積物は薄い。このため、耕作土直下がローム層及び遺構覆土という層序になっている。

第I層は、耕作土で粒子粗く粘性少い。層厚は20~30cmで台地上全体にみられる。南側の五輪塔東側は特に厚い。第II層は、粒子緻密で粘性に富む。層厚は、北側において30cmと厚いが、台地中央部から南西端にほとんどみられない。いわゆる遺物包含層で多くの遺構を覆っている。この層より構築されている遺構もある。第III層は、第IV層への漸移層で第II層と同様台地の中央より南西にかけてはほとんど見られない。第IV層は、粒子粗い火山灰層である。

なお、遺構の上部覆土は、弥生時代が茶褐色を呈し、古墳時代は、それよりやや黒味がかかっている。



第4図 北西久保遺跡層序模式図



第5図 北西久保遺跡発掘区設定図

VI 遺構と遺物

今回の調査は、遺跡の性格と範囲を確認するという性質の調査であったから、遺跡の全体に発掘区を設定し、より多くのグリッドを設定した。調査面積は3万 m^2 の内約5000 m^2 に及んだ。

まず、南北にあ～ろ、東西に97～100～50と4m×4mグリッドを設定し、まず東西方向の中2mトレンチを掘り下げた。長いものは160mを測る。表面には茎の太い枯草や桑根が多くあり、清掃に手間がかかってしまった。耕作土は比較的掘り易かった。

1) 調査方法

4m×4mグリッドを設定し、発掘はトレンチ方式で行った。東西方向のトレンチを22本掘り下げ、まず遺構の分布状況を把握した。その結果は当初の予想と大きく異り、ほぼ台地上全面に遺構が分布していた。第2段階では、遺構の性格追求に重点を置き東西トレンチに直交する任意の南北トレンチを掘り下げ、必要な場合はその周辺を展開拡大した。

2) 確認調査

第4図及び第2表に表わしてあるように、住居址115軒、古墳3基、周溝（溝状のプランを呈し円形にまとまるとおもわれるもの）6基、土壇60基が検出された。（遺構上面のため、個々に明確な性格づけは不可能であった。）

遺構の主体を占めるものは住居址とおもわれ、しかも、時代的には弥生時代中期に属するものとおもわれる。

まず、弥生時代中期の住居址の分布は、遺跡台地上北側部を除く全体に分布している。また、数の割には同一時期の重複関係が少いといえる。台地中央部よりやや南西側に遺構の空白部分があり、集落の構造的にも興味をひくものがある。

次に、古墳時代の住居址の分布であるが、出土遺物から和泉～鬼高期に属するものとおもわれる。これらの住居址群は、グリッド25列より東側部に集中している。グループは2とおりにわけられ、1グループは第1号古墳をとり囲む形をなし、もう1グループは、その東側に不規則にまとまっている。中央部より南西にはまったくみられず、この時期の台地の利用法及び集落構造の解明に示唆する多くの資料を与えるものであろう。

国分期に属する明確なものは、糸切り底をもった土師器が出土した、ひー46・47グリッド、そ・たー98グリッドを中心とした住居址の2軒であり、この分布状況も国分期の集落形態研究上から、興味深いものである。

古墳は計3基が存在し、石室を有するもの（半壊）が2基で、もう1基はすでに盛土も石室も壊されており、かろうじて埴輪を出土する周溝が存在している。それぞれの石室から玉類、鉄器

第2表 確認遺構一覧表

遺構名	検出遺構数	備考
弥生時代住居址	88	中期の栗林式土器多量に出土。
古墳時代住居址	25	和泉期～鬼高期（高坏多量）
平安時代住居址	2	国分期（墨書土器）
古墳	3	1号古墳より埴輪片多量、3号古墳より金環出土。
周溝	6	石積のみられるものがある。
土壇	66	

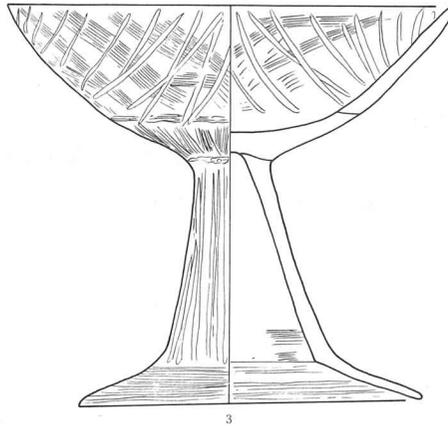
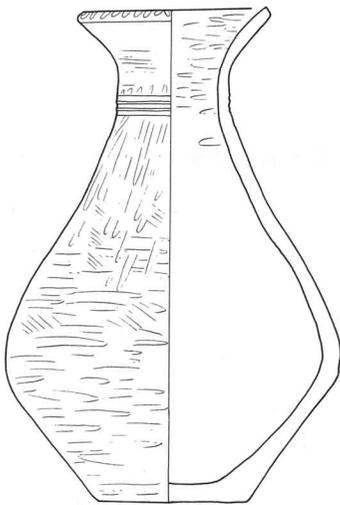
が出土している。2基とも玄室は南方に向けて開口している。
(入口)

周溝は6基あるが性格は不明である。

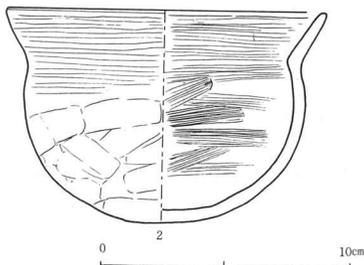
土壇は60基検出したが、一部土器（弥生中期）を出土するものの、その性格は判然としない。

その他に、ねー8～10グリッド内から礫群が検出されたが、昭和41年、45年の2次に渡る調査の際に検出された中世の遺構と関連性があるものなのかは速断できない。

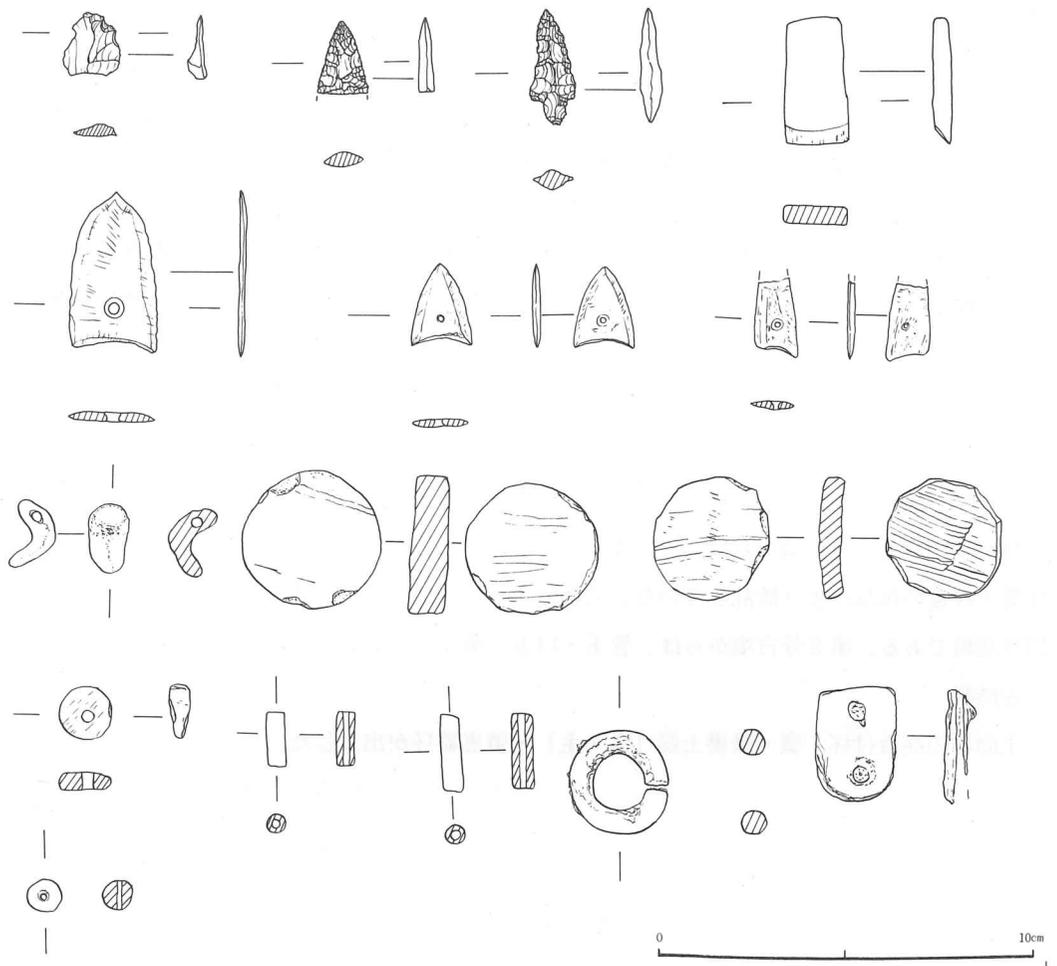
3) 出土遺物



第6図 北西久保遺跡出土遺物実測図



出土遺物は総じて段ボールのみかん箱に20箱という多量なものが出土した。耕作土からこのように多くの遺物が出土するというのは、この地域（一本柳、鳴沢本遺跡）の特徴であり、それは沖積世の堆積物が少量であり、耕作による破壊が著しいということに起因している。



第7図 北西久保遺跡出土遺物実測図

出土遺物の大別は、弥生時代中期（後期も若干含まれる）土器、古墳時代和泉～鬼高期土器片、平安時代土器片、石器、鉄器、骨粉、青銅器、埴輪片である。主体は弥生時代中期、古墳時代の土器が占める。特に弥生時代中期の栗林式土器は、佐久地方において、従来数少ないものであった。知られているのは、発掘調査された深掘遺跡、既出資料の中佐都地区のものが代表的なものである。本遺跡の資料は量の豊富さと出土する遺構のあり方などから当地方の弥生時代中期の標式的遺跡となりうるものであろう。なお、埴輪片も円筒埴輪、形象埴輪等豊富な量が出土し、当地方では貴重な資料である。又、青銅器の一部を再加工したとおもわれるものも1点出土している。

磨製石器も発掘調査では、豊富な量といえよう。

出土遺物を列挙すると（主なものを第6・7図に示した。）

縄文時代

石鏃が2点（黒曜石）あり、土器片は確認されていない。

弥生時代

中期の栗林式土器が主に出土した。壺・甕・甑・坏・注口土器・小形把手付土器等があり、文様は口縁部から胴部下半にまで及ぶものと、頸部に限られるものがある。石器は、磨製石鏃が3点、小形ノミ形石器等が出土し、この時期の生産用具に石器の占める役割の多さを示しているといえよう。青銅器も、1点出土した。矛様なものの再加工品で、小形の鏃に似せて作られている。

古墳時代

土師器が多量に出土した。和泉～鬼高期に属するものといえよう。甕・坏・高坏・埴があるが高杯が多い。第1号古墳からは、実に多量の埴輪が出土した。いずれも原初の状態ではなく、耕作等の後世の攪乱により散乱していた。人物の顔・手・足等の形象埴輪片も出土したが、多くは円筒埴輪である。第2号古墳からは、管玉・白玉、第3号古墳からは、金環・馬具等が出土した。

平安時代

土師器の高台付坏・甕・墨書土器（久・主）・須恵器坏が出土した。

V 総 括

調査の結果、前章までのような成果が得られ、佐久地方において貴重な資料が得られた。今後周辺遺跡等の綿密な比較研究をし弥生時代、古墳時代、平安時代の歴史の中に組込んでいかねばならぬものである。

さて、本調査の主旨であった本遺跡の今後の保護・保存施策について調査団の見解は次のとおりである。

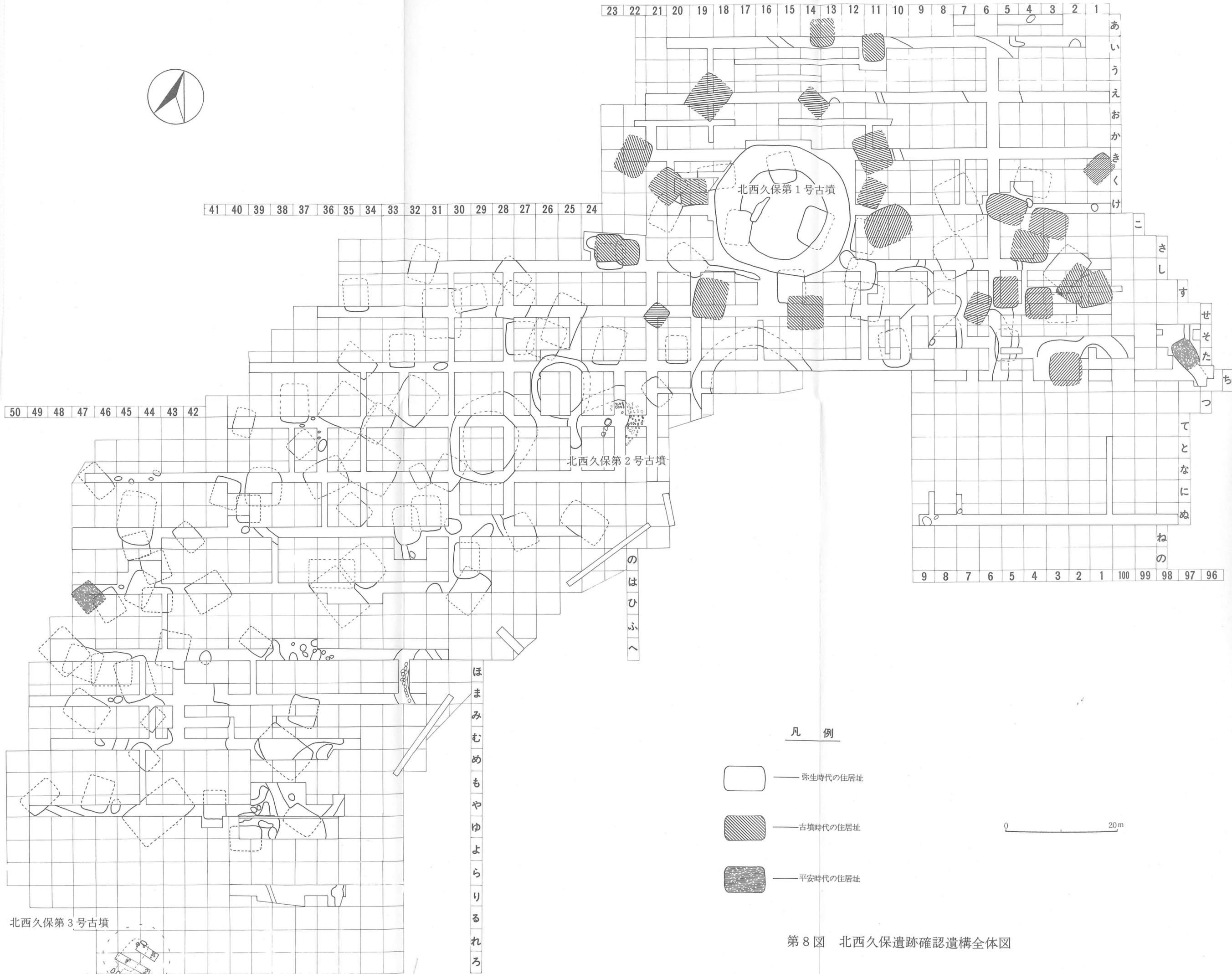
北西久保遺跡の保護について

調査の結果、住居址や土抔が遺跡の平坦部のほぼ全面に渡っており、弥生時代と古墳時代及び平安時代の集落址並びに墓域としての性格をもった遺跡といえよう。

遺跡の現状は、沖積世の堆積土が浅く多量の遺物が耕作土に混入しているように遺構の破壊が進んでいる状況である。佐久市において縄文・弥生・古墳時代の大集落が検出された後沢遺跡も同様に耕作によって破壊が進行しており、現在宅地化されている。本遺跡の中央部より南西部にかけては耕作土が20～30cmで遺構もすでに部分的に相当消失している。

こういった諸状況を考慮すると、発掘調査を実施して記録保存という保存策でもやむえないであろう。

ただし、本遺跡はわが国に水稻耕作が伝わり北九州より除々に東日本に伝わっていく過程（弥生時代の中期にあたり、弥生時代の文化展開の中でも旧来の石斧使用から鉄器の動入される新しい展開の時期）にある。したがって、保存の施策は記録保存であっても積極的な研究調査を経なければ、本遺跡の歴史的な位置づけを社会にまた、我々の子孫に伝えていくことはできない。積極的な調査とは、諸々の科学的調査はもとより、十分な期間、経費、スタッフが満たされたうえでの調査である。これがなされないからには、開発はもちろん諸々の破壊的な行動はあらゆる手段を駆使して回避せねばならない。特に文化財保護行政担当部局の監視・指導は徹底せねばならない。



凡 例

-  弥生時代の住居址
-  古墳時代の住居址
-  平安時代の住居址

0 20m

第8図 北西久保遺跡確認遺構全体図



1 北西久保遺跡全景（南東より）



2 北西久保遺跡近景（南より）・後方は浅間山



1 桑の抜根作業（北東より）



2 調査前の北西久保遺跡全景（南より）



1 層序



2 発掘風景



1 発掘風景（南西より）



2 調査実施箇所近景（あ～かー1～12グリッド，南西より）



1 調査実施箇所近景（す〜ちー1〜12グリッド，南西より）



2 調査実施箇所近景（あ〜ちー1〜25グリッド，北東より）



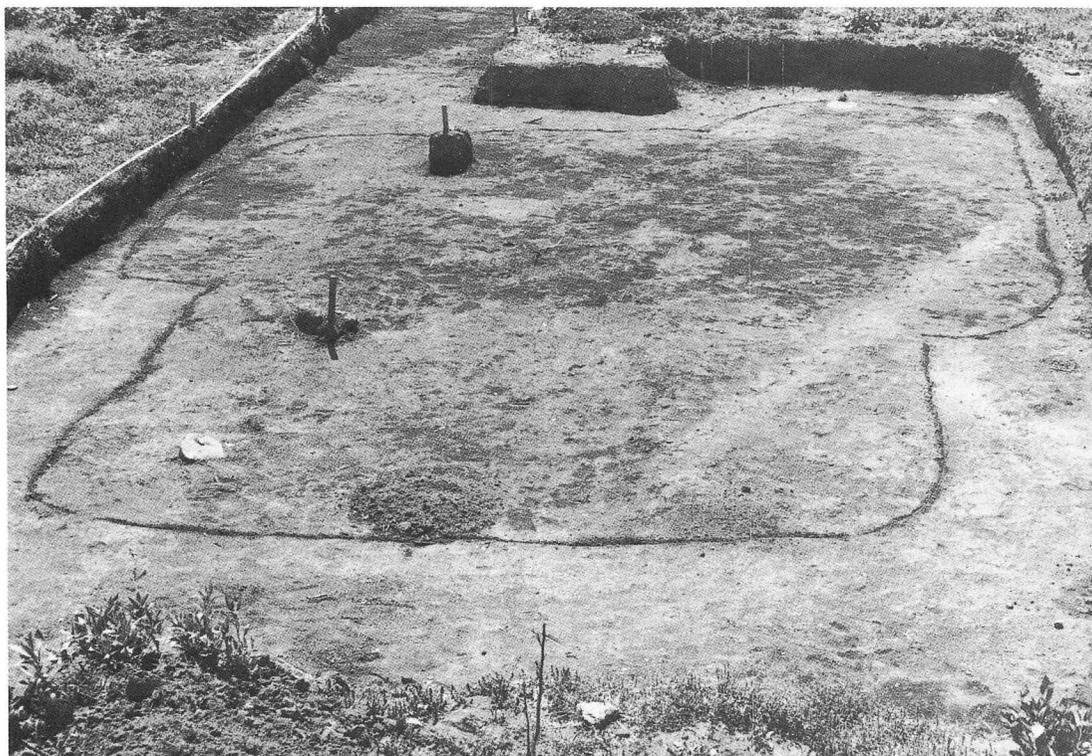
1 調査実施箇所近景（も～よ-36～50グリッド，北東より）



2 確認遺構（ゆ-39・40グリッド内）



3 確認遺構分布状況（や-40～49）



1 確認遺構の重複状況（さ・しー22～23グリッド，東より）



2 確認遺構分布状況（さ～すー12～19グリッド，南より，北西久保第1号古墳南より）

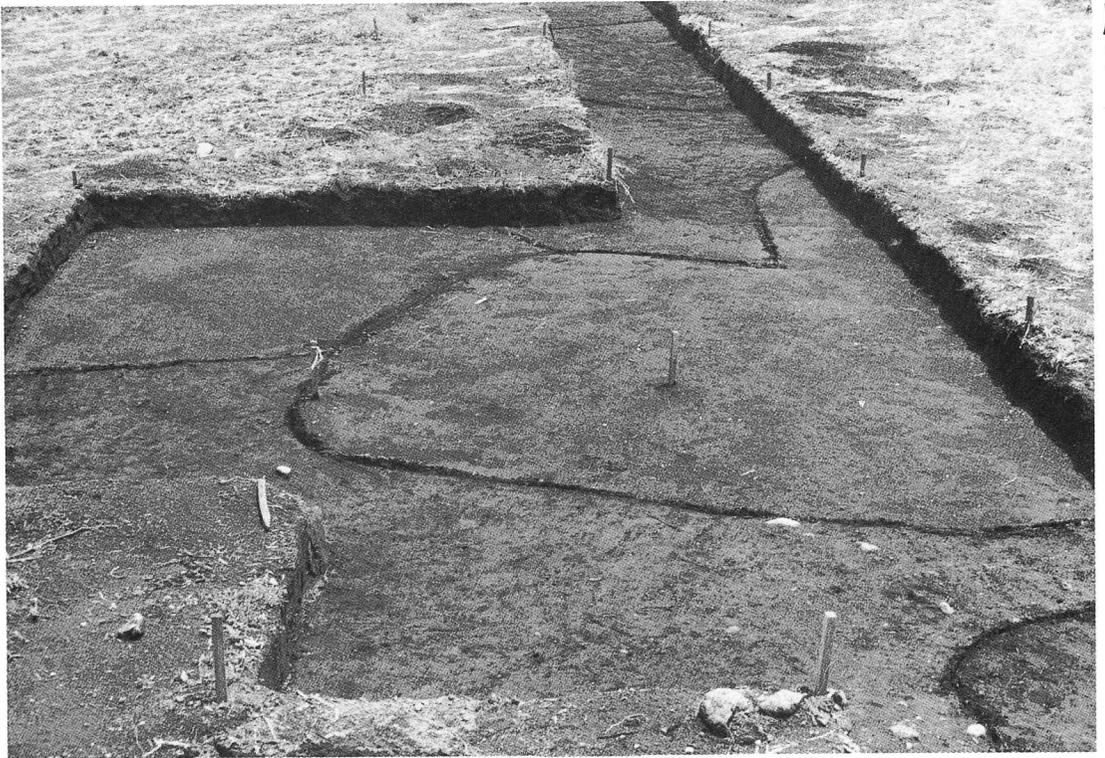


1 確認遺構分布状況（む・め-35~39, 東より）

2 確認遺構分布状況（み-39・40グリッド, 東より）



3 確認遺構分布状況（も・や-38~40グリッド, 東より）



1 確認遺構分布状況（の・は-41~47グリッド，西より）



2 確認遺構分布状況（しー7~26グリッド，東より）



3 確認遺構分布状況（しー14~25グリッド，東より）



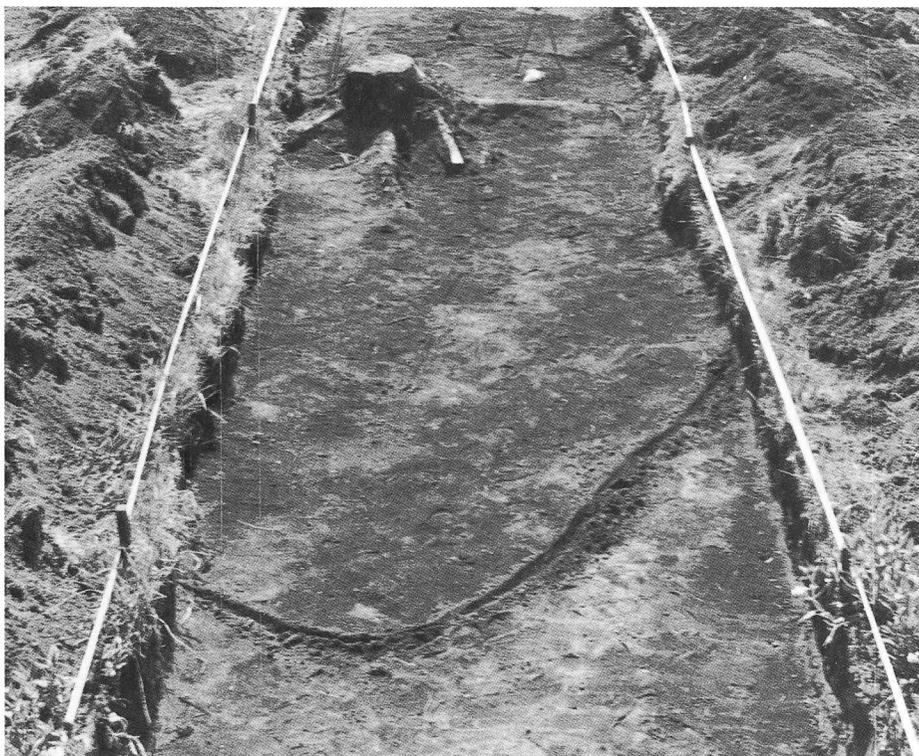
1 北西久保第2号古墳（た～とー 21～25グリッド，北東より）



2 北西久保第2号古墳（北東より）



3 北西久保第2号古墳（北西より）



1 確認遺構分布状況（セー14～36グリッド，東より）



2 遺物出土状態（セー15グリッド，北より）



3 遺物出土状態（セー15グリッド，北より）



1 遺物出土状態 (み-39グリッド)



2 遺物出土状態 (け-4グリッド, 南より)



3 遺物出土状態 (む-45グリッド, 東より)



1 遺物出土状態（き-15グリッド，北西久保第1号古墳）



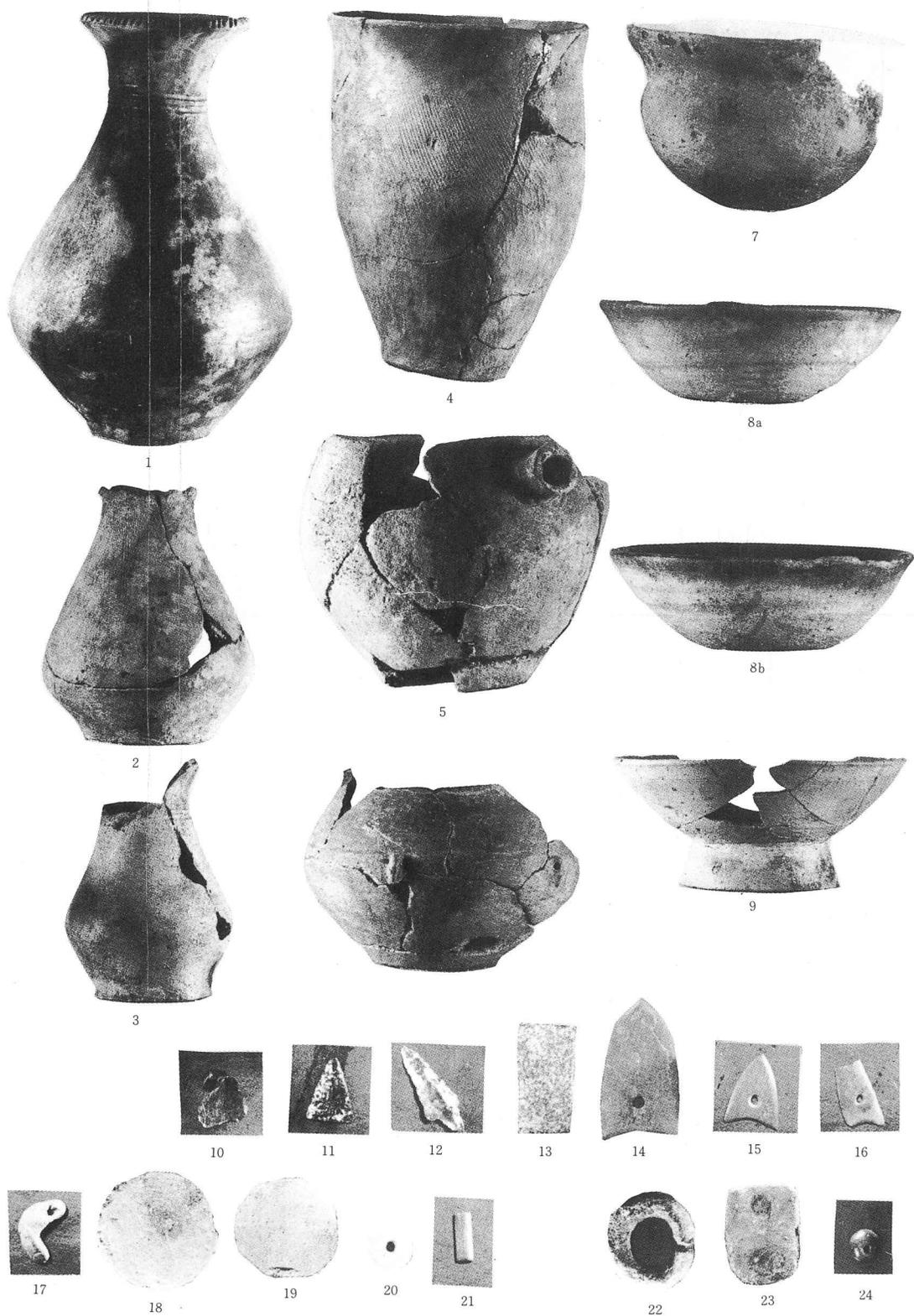
2 遺物出土状態（け-18グリッド，北西久保第1号古墳）



1 遺物整理作業



2 遺物整理作業



北西久保遺跡出土遺物（1～6・13～16・18・19は弥生時代，7・20～24は古墳時代，8・9は平安時代，10～12は縄文時代）



北西久保遺跡出土遺物 (弥生時代中期)



北西久保遺跡（古墳時代）

長野県佐久市北西久保遺跡発掘調査報告書

昭和 55 年 3 月 発行

編集者 北西久保遺跡発掘調査団

発行者 佐久市教育委員会

印刷所 株式会社佐久印刷所